

新年賀詞交歓会 ～会員企業など約700名が出席～

2026年1月7日に東京・芝公園の東京プリンスホテルにおいて新年賀詞交歓会を開催、会場には会員各社のトップをはじめ、産官学より約700名が出席、新年の挨拶とともに積極的な意見交換などが行われ、会場は大いにぎわいました。



当日のハイライト

主催者を代表して、漆間啓会長より挨拶があり、「2025年はAIをはじめとするデジタル技術が、社会や暮らしの隅々にまで浸透し、「特別な技術」から「当たり前の存在」へと、大きくその位置付けを変えた一年だったと振り返るとともに、大阪・関西万博については、技術によって社会課題をいかに解決し、どのような価値を創出していくのかという、明確なメッセージであった。その意味で、2025年は、デジタル産業の社会的価値と責任が、これまで以上に問われ、そして期待された一年であった」と総括しました。その上で、2026年については、「午年に象徴される躍動感を追い風に、デジタル化をさらにギアを一段上げて、加速させる年」にしたいと抱負を述べ、「課題を乗り越える鍵は、間違いない、デジタル技術の力を社会全体で活かしきることにある。いま求められているのは、個別の取り組みにとどまらない、社会全体のデジタルトランスフォーメーションであり、そして、私たちデジタル産業は、その変革を支える基盤であり、中核を担う存在に他ならない。皆様と力を合わせ、2026年を、午年にふさわしく、力強く第一歩を踏み出し、その歩みを確かなものとする一年にしたい」と語りました。



漆間会長による主催者挨拶

また、来賓として赤澤亮正経済産業大臣が挨拶に登壇、「官民が力をあわせて取り組む必要があり、経済産業省も、覚悟を決めて、必要な産業政策を積極的に推進する」と語り、「高市内閣の成長戦略の肝である危機管理投資、成長投資の方針に積極的に取り組む」と強い意欲を述べられました。



赤澤経済産業大臣による来賓挨拶

その後、乾杯の音頭をとった新野隆筆頭副会長は、漆間会長からの「デジタル化のギアをさらに一段上げて、加速させる年にしよう」という発言を受けて、「具体的なアクションの一つが、デジタル技術の総合展示会『CEATEC』だ。社会実装に向けた挑戦を発信し、共創を生み出す、JEITA主催の中核的な事業である。昨年は総理大臣から園児まで、約10万人の皆様に来場いただいた。今年も多くの会員の皆様に出展いただき、次のビジネス、次の連携を生み出していただきたい。社会全体のデジタルトランスフォーメーションを会員一丸となって前に進めていこう」と参加者に呼びかけました。



新野筆頭副会長による乾杯